

学生募集戦略検討委員会「第3回学募共同事業」勉強会を開催しました

2020年12月22日（火）にオンラインによる「学募共同事業勉強会」を開催し、11大学31名にご参加いただきました。

1. 進学ブランド力調査 2020 の結果について

報告：株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 飯島隆介 氏

リクルート「進学ブランド力調査」の結果概要について、株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 飯島氏より資料に基づき報告がなされました。

本調査は、2020年4月に関東・東海・関西エリアの高校に通う2021年3月卒業予定者（調査時高校3年生）に対して行われました。報告では、各エリアの大学に対する志願度・知名度・イメージ等の傾向の他、福祉系希望者が、「資格取得に有利である」「社会で役立つ力が身につく」こと等を相対的に重視している傾向が述べられました。

2. 2021年度学募共同事業について

報告：福祉系大学経営者協議会 学生募集戦略検討委員会幹事校 淑徳大学 長谷川俊哉 氏
株式会社ボーダーリズム 横地祐人 氏

冒頭、淑徳大学 長谷川氏より、2016年から当協議会でやってきた学募事業の総括について報告がなされました。続いて、2021年度の学募共同事業について、株式会社ボーダーリズム 横地氏より資料に基づき説明がなされました。

参加者からは、「これまでの学募共同事業により、福祉希望者に響くキーワードの一つが『災害』であることがわかった。その他にも何かないか考えていきたい。」「福祉分野の認知度を自大学だけで上げるのは難しいと感じている。これまで当協議会全体で取組んできた福祉系以外の分野から取り込むという施策はよいと思う。」「コロナ禍でネガティブなニュースが多い中、看護系の反応は非常に良いが、福祉は変わらない。人のために働くという点では看護も福祉も変わらないはず。そのギャップを考えている。」等の声が寄せられました。

3. 情報交換

各校の学生募集状況等について情報交換を行いました。また事務局より、加盟27校が参加し作成した動画「加盟校から高校生へのメッセージ」を当協議会ホームページで公開したことが報告されました。

開会挨拶

丸山悟会長（日本福祉大学理事長）より、「福祉分野の学びは『社会に役立つ』『専門分野を深く学べる』というイメージを持たれていることが分かったが、福祉分野の学びや特徴はまだ正確に伝わっていないように感じる。リアルな対話を通して、『福祉分野はどんな学びをするのか、どんな特徴があるか』を具体的に伝えていく必要がある。『災害』はすべての人の生活に関わるうえに、各地で起こりうることであり、『災害』をキーワードに福祉分野を訴求していくことはよいと思う。日本国憲法第25条には『すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する』と謳われているが、福祉分野においてその意味を語る必要がある。また、社会保障・公衆衛生の保持に務めることは生存権に関わると明文化されており、これは『福祉の理念』とも関わっている。『災害』をキーワードに多様にアプローチし、その反応の強弱をみなから具体的な施策を行うことが大切である。」と挨拶され、閉会しました。

以上、現状を踏まえて今後の学生募集の取り組みを考える有意義な勉強会となりました。